



アジアチャンピオンズトロフィー

開催日時 11 月 2 日 (土) 会場 岐阜県グリーンスタジアム 天候 曇り

【全試合結果】

【女子】

第1試合 10:30	日本	3	$\begin{pmatrix} 2 - 0 \\ 1 - 0 \end{pmatrix}$	0	マレーシア
第2試合 12:30	中国	2	$\begin{pmatrix} 1 - 2 \\ 1 - 2 \end{pmatrix}$	4	インド

【男子】

第3試合 14:30	マレーシア	0	$\begin{pmatrix} 0 - 0 \\ 0 - 1 \end{pmatrix}$	1	日本
第4試合 16:30	パキスタン	8	$\begin{pmatrix} 3 - 0 \\ 5 - 0 \end{pmatrix}$	0	オマーン
第5試合 18:30	インド	0	$\begin{pmatrix} 0 - 0 \\ 0 - 2 \end{pmatrix}$	2	中国

【各試合の結果・詳細】

第1試合

日本 3 $\begin{pmatrix} 2 - 0 \\ 1 - 0 \end{pmatrix}$ 0 マレーシア

勝点 3 勝点 0
1 勝 0 分 0 敗 0 勝 0 分 1 敗

<得点>

日本 : 5分 #17大塚、33分 37分 #10新井

マレーシア :

<戦評>

大会初日、オープニングアトラクションは、地元の各務原太鼓保存会による太鼓演奏と各務野さくらマーチングバンドによるディズニーメドレーで大いに会場を盛り上げた。

高円宮久子妃殿下は、午前10時過ぎに到着され、関係者から説明を受けながらご観戦された。

日本のセンターパスにより、試合が開始された。5分、日本は#9三橋がドリブルでサークルインし、ゴール前へパス。それを#17大塚が倒れ込みながらもタッチシュートを決め、先制点を挙げる。その後も日本は正確なパス回しからゴール前へボールを集め、シュートを狙うが、追加点は挙げられない。マレーシアは、力強い守備から攻撃を仕掛けるも、日本の堅い守備により、攻めきることが出来ない。33分、日本はPCを取得。#4小野がスイープヒットで#10新井に合わせ、華麗なタッチシュートを決める。2-0で前半を折り返した。

後半戦が開始され37分、日本は、#4小野がセンターライン付近からゴール前へロングパスを出す。#10新井がノーマークでパスを受けると、相手GKを冷静にかわし、プッシュでシュート。3点目を挙げる。マレーシアは40分、PCを取得。#23Adawiyahがタッチシュートするも、日本GK#1大家のファインセーブにより、得点に繋がらない。その後も、59分、66分とPCを取得し、チャンスを得るも、日本の堅い守備を破ることは出来ず、3-0で日本が勝利した。

テクニカルオフィサー	Alfred Chan(CHN)	アンパイア	Kang Hyun Young(KOR)
ジャッジ	Yao Hongjun(CHN)		Suman Chumbak(IND)
	Anjali(IND)		

第2試合

中国 2 $\begin{pmatrix} 1 - 2 \\ 1 - 2 \end{pmatrix}$ 4 インド

勝点 0 勝点 3
0 勝 0 分 1 敗 1 勝 0 分 0 敗

<得点>

中国 : 35分 #16 YAO LILI、58分 #15 HAO WEIJIA©

インド : 7分 64分 #15POONAM RANI、8分 #31AMANDEEP KAURA、64分#16VANDANA KATARIYA

<戦評>

中国のセンターパスにより前半戦が開始された。7分インドはPCを取得。#15 POONAM RRANIがタッチシュートを決め、先制点を挙げる。8分インドは#31AMANDEEP KAURAが左サイドからのパスを確実に決め、2点目とした。

その後、中国がゲームを優位に進め、30分PCを取得するも決めきることができない。35分、中国は左サイドから打ち込んだボールがインドDFスティックに当たり、得点。中国が1点を返し、2-1でインドリードのまま前半戦を終了。

インドのセンターパスにより後半戦が開始され、一進一退の激しい攻防が続く。47分インドがPCを取得。ゴール正面からタッチで合わせるが、中国のGKの好セーブにより追加点を挙げる事が出来ない。インドは53分にもPCを取得するが、右サイドからタッチしたシュートは枠を外れる。58分に中国がPCを取得。#15 HAO WEIJIA©がタッチで合わせ、2点目を挙げ、追いつく。その後、64分インド#15 POONAM RRANIがゴール前のこぼれ球を押し込み3点目をあげ、リードする。さらに64分#16 VANDANA KATARIYAが右サイドからのセンターリングをスライディングでタッチシュートし、4点目を挙げる。そのまま試合は終了し、4-2でインドが勝利した。

テクニカルオフィサー	Naomi Kato(JPN)	アンパイア	Nuehafizah Azman(MAS)
ジャッジ	Michiyo Imajo(JPN)		Yumiiko Yasuoka(JPN)
	K Ananthavale(MAS)		

第3試合

マレーシア 0 $\begin{pmatrix} 0 & -0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix}$ 1 日本

勝点 0 勝点 3
0 勝 0 分 1 敗 1 勝 0 分 0 敗

<得点>

マレーシア :

日本 : 70分 #29 山部

<戦評>

高円宮久子妃殿下は、午後2時過ぎに到着され、関係者から説明を受けながらご観戦された。日本のセンターパスにより、試合が開始された。マレーシアは、力強いストロークで相手陣内に攻め込み、12分、PCを取得。強烈なシュートを放つも、日本GK#1高瀬の好セーブに阻まれ、得点には繋がらない。日本も、スピードのあるドリブルから攻撃を仕掛け、15分、PCを取得。#16畠山がドラッグシュートを放つも、相手GKに阻まれる。その後、激闘が続くも、両チームとも決定打に欠け、0-0のまま前半戦を折り返した。後半に入り、互いの攻撃はさらに激しさを増す。日本は、ドリブルでサークル内にボールを運び、決定的なチャンスをつかむも、決めきることが出来ない。マレーシアは、粘り強い守備から攻撃を仕掛け、多くのシュートを放つが、得点には至らない。マレーシアは、64分、PCを取得し、ドラッグシュートを放つ。日本#15山下が体を張った守備を見せ、得点を許さない。このまま試合終了かと思われた70分、日本#11川上啓がタッチシュートを放つ。一度はGKに阻まれるも、#29山部がリバースで押し込むと同時にホーンが鳴る。1-0で日本が勝利した。

テクニカルオフィサー	Alfred Chan(CHN)	アンパイア	Jang Jung Min(KOR)
ジャッジ	Asif Khan(PAK)		Thani Saheem(OMN)
	Liu Chengjun(CHN)		

第4試合

パキスタン 8 $\begin{pmatrix} 3 & -0 \\ 5 & -0 \end{pmatrix}$ 0 オマーン

勝点 3 勝点 0
1 勝 0 分 0 敗 0 勝 0 分 1 敗

<得点>

パキスタン : 16分 52分 #18 MUHAMMAD SALMAN HUSSAIN, 31分 41分 64分 #19 MUHAMMAD IMRAN
34分 53分 #16 MUHAMMAD DILBER, 46分 #14 MUHAMMAD TOUSIQ

オマーン :

<戦評>

オマーンのセンターパスにより前半戦が開始された。13分パキスタンはPCを取得。得点に結びつけることはできない。試合を優位に進めるパキスタンは16分右サイドからゴール前への折り返しを#18 MUHAMMAD SALMAN HUSSAINが力強いプッシュシュートで決め、先制点を挙げる。対するオマーンも懸命に守りカウンターを狙うが、思うように攻撃することが出来ない。31分パキスタンはPCを取得、#19 MUHAMMAD IMRANが豪快なフリックシュートを決め、2点目を挙げる。その後、34分にもパキスタンは左サイドからのセンタリングを#16 MUHAMMAD DILBERがタッチシュートし3点目を挙げ、3-0で前半戦を折り返す。パキスタンのセンターパスにより後半戦が開始された。後半戦もパキスタンのペースでゲームが進み、41分と46分にPCから2点を追加し5-0とする。1点がほしいオマーンは数少ないチャンスを活かしかウンターを仕掛けるが、パキスタンの固い守備に阻まれ、得点を挙げる事が出来ない。パキスタンは52分に#18 MUHAMMAD SALMAN HUSSAINがタッチシュートで6点目、53分に#16 MUHAMMAD DILBERがリバースシュートで7点目を挙げ、オマーンをさらに突き放す。その後もパキスタンは猛攻撃を仕掛けるが、オマーンのGK#22 FAHAD KHAMIS AL NOUFALIが好セーブを見せる。64分パキスタンはPCを取得。#19 MUHAMMAD IMRANがフリックシュートを決め、8-0でパキスタンが勝利した。

テクニカルオフィサー	Koichi Ueda(JPN)	アンパイア	Lingam Kupusamy(MAS)
ジャッジ	Rakesh Bahtia(IND)		Shin Dong Yoon(KOR)
	Liu Chengjun(CHN)		

